

東方 Fanbook

R 咲

咲夜への罰 下



For Adult Only



紅魔館には沢山のメイド達がおり
それを取りまとめるのが私、咲夜の役目。
だからメイド達には安心して働けるように
失態などの責任はすべて私に取ります。

それがメイド長の役目だから……

大丈夫よ……
ケガはない？

申し訳ありません
お嬢様!!

これだけ誤って
いることですか……

そして今回のメイド達の失態も私の責任。
メイド達に責任はありません。
だから私が罰を受けるのも当然のこと
そしてそれはこれからも変わらないことです……

咲夜様!!

に……人間を！
食料用の人間を
逃してしまいました(汗)

えっ!?
ど……どこで

南館の食料庫です

ただ……
今回の失態は重大なミス。
その罰は想像を絶するもので
それは私が性奴隷となり償うことでした。
それができなければ
お嬢様のお許しが頂けないのはもちろん
お嬢様との別れを意味するはず……

それだけは……失いたくない……
私はお嬢様が全てだから……

だから……お嬢様のためなら
何でもします……!!
嫌われたくないから
何だってします……!!





罰が始まったあの日：
お嬢様は名も知らない男に
私を犯し性奴隷へと
調教するように命じた。

男はそれを良いことに
調教具や触手、そして
いきり立った肉棒で
私を辱め犯した。

ウネ

ウネ

ウネ



何度も何度も
味合わされる苦痛も
次第に快樂へと変わり



意志とは逆に
体がその快樂を
求めようとし始める…



そんな私をさらに
男は攻めたて
快樂を与えようとする…



憎いはずの男なのに
少しでも気を許すと
快樂を与えてくれる
最愛の人に見えてくるのは
なぜ……



この先どうなって
しまうのか……
…怖い……



一体
自分が…



私はお嬢様としか
愛し合いたくない
...はず

普通の行為でしか
感じない...はず

はず...

なの...!!.....



もう何度目の
絶頂かな♪

あぁあ

ブル

ブルブル

ブル



もう気付いて
いるんでしょ？

本当は
お嬢様の為じゃなく
自分から求めていること！

私はお嬢様の望む
性奴隷になるために…

ちっ…違う…ッ

それなのにまだ
ココは欲してる…♪
本当…淫乱だね



でも遅かれ
早かれ分かるよ

本当の
自分をね…

ま…いいよ…
ただ僕は咲夜さんの
耐えてる姿が見たく無いだけ…



そんな訳…

そッ



ふん...

お兄ちゃん...
最近フ란の所に
来てくれないって思ったら
咲夜が一人じめしてたんだア



フ...
フ란様...!!

クソッ



まあ
フ란も一緒に
楽しむといいわ

でもちゃんと
レミイの言いつけ
守ってね

せっかく
来たんだから
いっぱい遊ぼうよ

うわ

うわ

うわ

うわ

え?



もお...
目くじら立てない
約束でしょ...

触手の調子はどう?

ううう
だつてええつ

おは



はいはい

パチュ
この触手ツ!

ル
ル
ル



えへへっ♡

咲夜をいっばいっばい
触手チンポで犯せば
良いんだよね?
そしたらお兄ちゃん
フランと遊んでくれるんだよね?



きやっ!?



なのになの
咲夜ばっかり
ズルイよ!



私だって
お兄ちゃんと
一緒に遊びたかったん
だからね



でも今
気持ちよくしてくれたら
許してあげる

だめか
てらほらッ
ッ

ドキン・ドキン...

アレを
入れられたら
私.....

お.....ち
んちん.....



僕が代わりに
相手をしますから

別に嫌なら無理して
奉仕しなくても
いいですよ
咲夜さん

えッ本当お♪
フランどっちでも
いいよー



?



私が!

わ??

私が奉仕します!



し.....しますッ!
私が.....ッ



は...30...

あ...くさ...

こんなのが...
こんなのが私の
中に入ったら...

凄い臭い...

それに
おちんぼ汁が
もうこんな...



フリンのおまんこにも
気持ちイイの
伝わってくるっ ♡

あ~~~~ ♡

あ ♡
あッあ
あッあ
あッあ
あッあ

もっ... ♡
もっ... ♡
もっ... ♡
もっ... ♡



もっと
たくさんして♡

咲夜のおロツ♡
Hな触手で
いっぱいにしたげるッ♡

うう…苦しい…
でも…おちんぼ汁が
どんどん口に
広がってく♡

あああつ
やああああん♡
なんか出ちやう♡

やらやらあ
まだなのオ♡

クワッ

グワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ



もうだめっ!...

この味
癖になっちゃう♡

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ



ち、ちがう！
そんなはず無い！



えへ
今度は
フリンの番だよ♡



あ：ああ
スゴイツ！何コレ……
今までこんな
こんなおちんぼ……

中で小さな魚が
踊り狂うような……
……かき……乱されるう
……ッ……!?





ふ…ひゃ…もあ
限…果…ぢみお

気持ち良くて…
白い…
ジュルってしたイッ

ああ…わらひ…も
もあ…ううああ



もあ…
らめ…ッれふ
う…ッ

わた…し…



あれだけののに
まだこんなに
濡らして…

咲夜さん
とれだけ
淫乱なんですか？

ほら見てよ

ちよっと触った
だけで蜜がこんなに…

こんなの見せられたら
僕もまた興奮してきたよ



どう?
部屋いっぱい
このニオイが充満して
ムセそうだよね?

ああ……..
おちんちん……♡

でもそれが
たまらなくて……

すんげー……



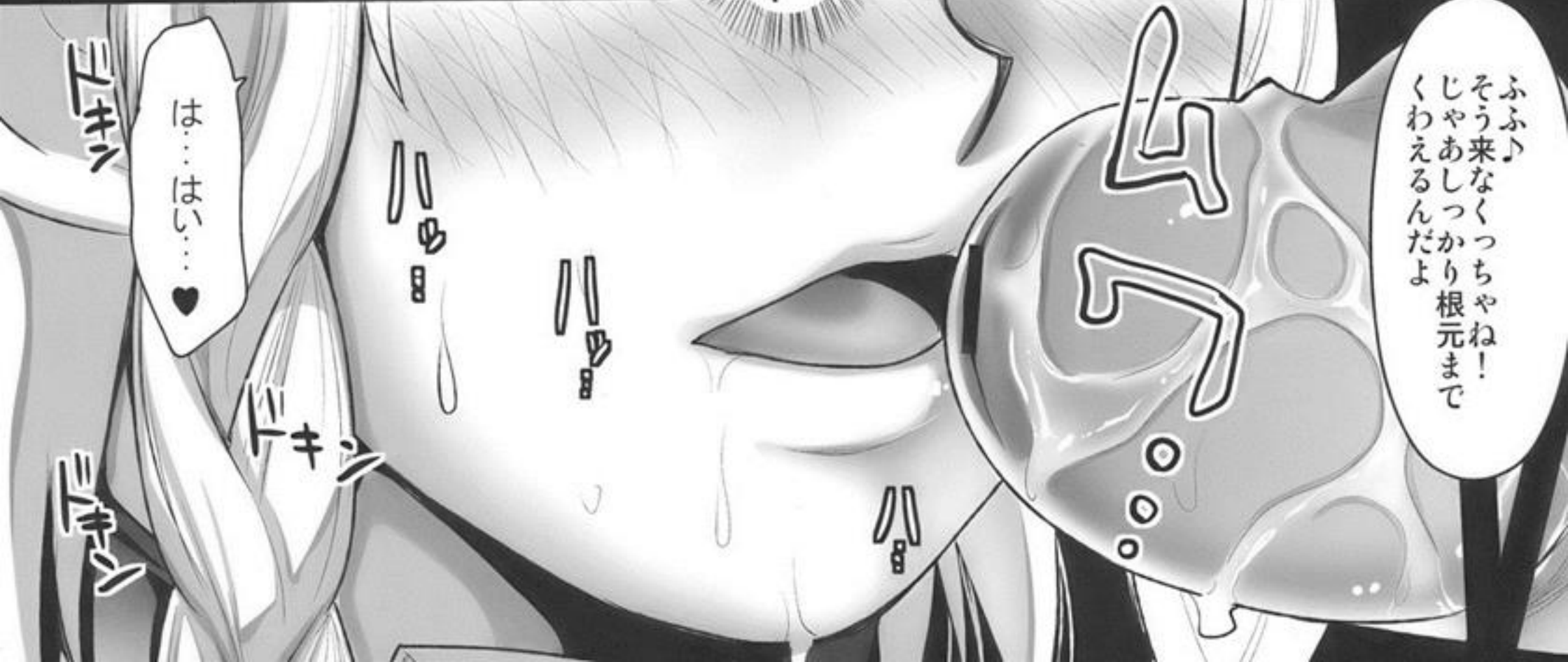
欲しい……
です……

お願いします
ください……



お願い……
もう私にそれを
見せないで

もう……
限界だから……



ふふ♪
そう来なくっちゃね!
じゃあしつかり根元まで
くわえるんだよ

は……はい……♡

ムキムキ

ムキムキ



かお
かお
かお

あー

うん♪
一緒に気持ちよく
なろーよ♥

僕も仲間に
入れてね

あひゃん、
すいおいこ♥

おーい……

おいしい……ッ
おちんぽ汁
おいひいよお♥



ハッ
ハッ
ハッ

ハッ
ハッ
ハッ



フルフルフルフル



うっしゅっしゅっしゅっ
フワ……んもお
出ちやうよおオ……♡

うっしゅ

うっしゅ

うっしゅっしゅっ

うっしゅ
うっしゅ
うっしゅ



うぐっ♡

んんんん

んオ♡



うっしゅ♡

うっしゅっしゅっしゅっ
うっしゅっしゅっしゅっ

うっしゅ
うっしゅ
うっしゅ

うっしゅ
うっしゅ
うっしゅ

うっしゅ

うっしゅ

うっしゅ



0000

WAAAAA

WAAAAA

WAAAAA

GAGAGAGA

GAGAGAGA

私は
お嬢様に忠実な
性奴隷になりたかった
だけなの……

なのに……

今の私は……

ただ自分の快楽に酔ってるだけの
無様で淫乱な人間じゃない……

こんな私を……
お嬢様が許してくれるはずが
ない……！

私……私……
お嬢様に……

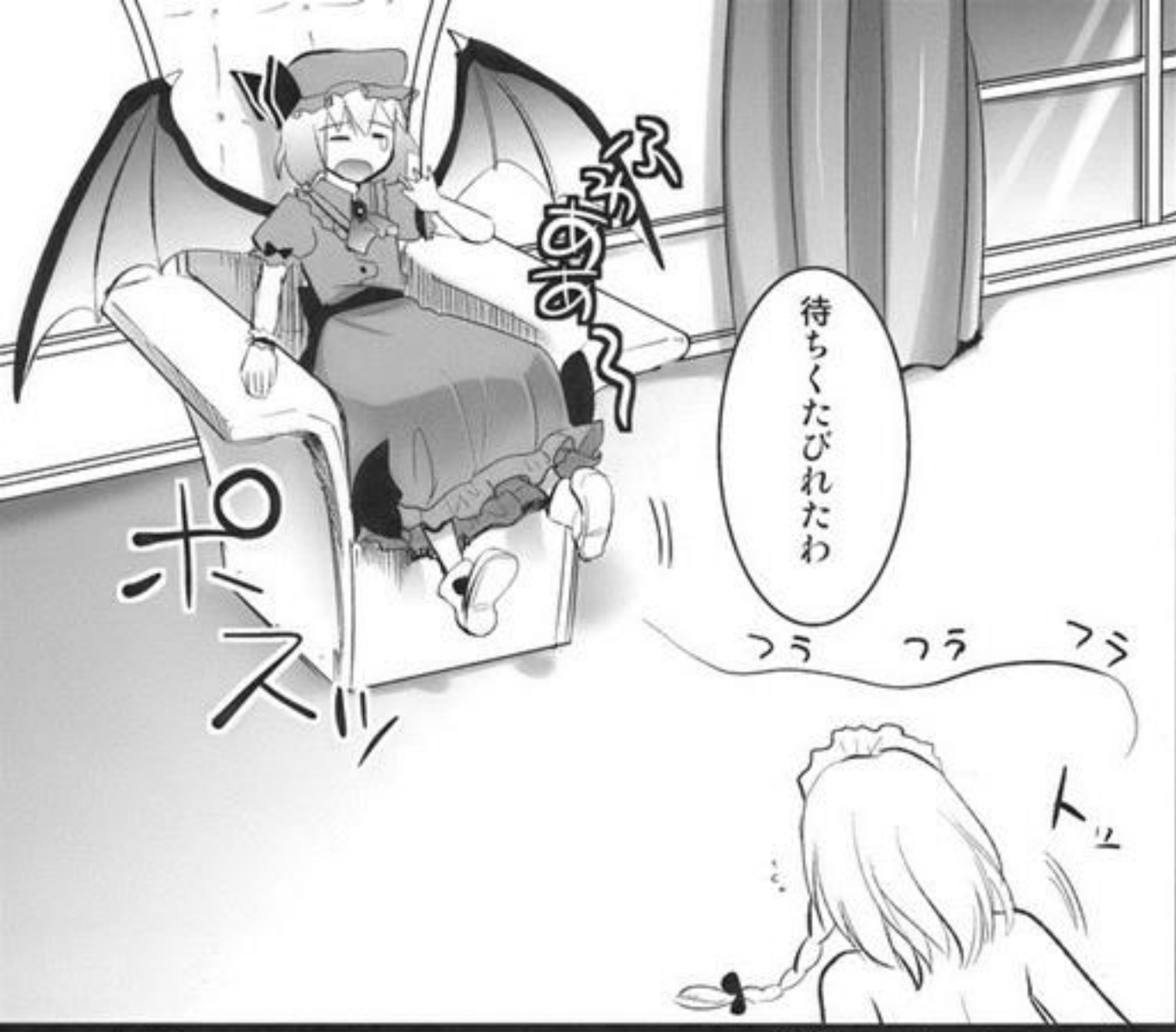
嫌われる……？

お嬢様に……

嫌われる……！！

いや……そんなの……
いや……！！





待ちくたびれたわ



咲夜がなかなか起きないから…



パチュも楽しんでいたみたいだし

それにしてもあの男とフランに派手に調教されたみたいね



……



体は大丈夫…？



私：罰と分かっていながら
自分の快樂のために……

あの男を求め……

お嬢様の事……も
見失い……かけ……
て……ツ

そう……

ねえ……咲夜……？
今日は何だか体が凄く
火照っているの

どうしてか
わかる？

咲夜から私と同じ快樂を
求めるニオイがするからよ……



今の咲夜なら
そのニオイが
感じ取れるでしょう？

えっ？



それとも本当に自分の
本質に気付いて
いなかったのかしら？

まあどちらにせよ
結果は同じ事



あ……あ……
この厭らしい
ニオイは……



私の……本質……？

ふふ……まだ
はつきり理解
出来てないようね

いらっしやい咲夜……



でも咲夜は私のことを
思うがあまり本当の自分を
受け入れられないでいる……

いえ……正確に言えば
気付いているけど
目をそむけていた
そんな所かしら……

私と何度も肌を合わせたんだもの
どんなに隠しても
私にはお見通しよ……？



言葉がいつになく優しい...



おダ...嬢様あ...ッ

お嬢様...
こんな私を...
許していただけの...
ですか...?

あ...ああ...



嬉しいわ

また随分と感じやすくなっただわね



お嬢様……
どうしてこんなに
いいニオイが
するの……♡

好きにして
良いわよ



ああ……あ……
Hなニオイで
たまらない

おまんこ……♡

ああ……お嬢様の……



うっ……シンん♡
そんなに
興奮しちゃって……
本当に淫乱な子に
なったのね

も……もっ
我慢できない……ッ♡

うれしいわ
咲夜……♡



よかった……

お嬢様……♡



それに
お嬢様が
喜んで
くれる……



!?



咲夜…

うふふ
咲夜の
いっばい……♡



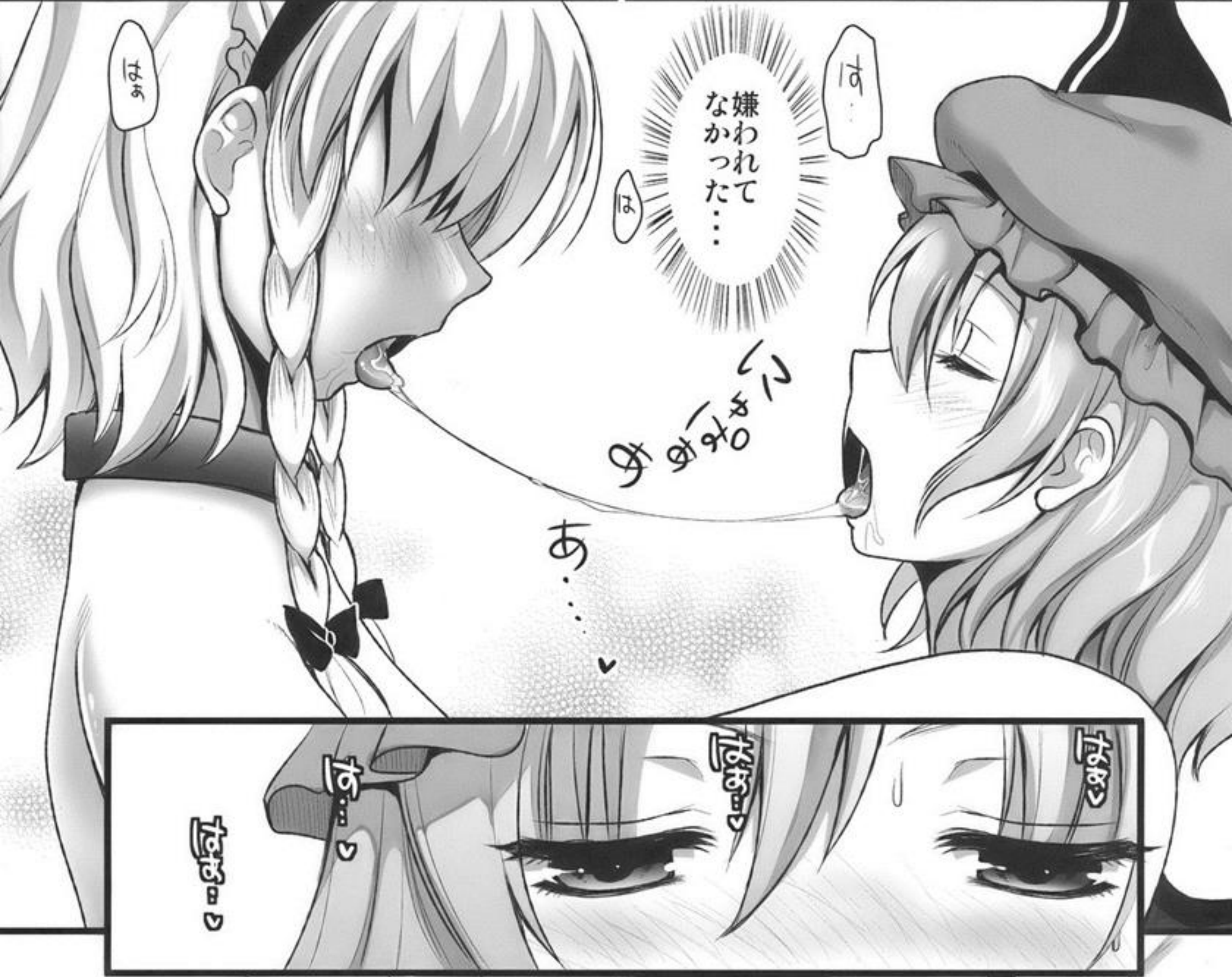
……
お嬢様……

……あぁ……
私……



とっても
美味しいわ♡







大丈夫よほら
力を抜きなさい

ああお嬢様……
あの日々は罰ではなかったのですね
全てはお嬢様が私の為にしてくれた事
だった……と……

あ……

おお

えッ……
そんないきり立った
太いの……

ズズズズ

ああッ……
おなか……

うああッ！
おなかいつぱいに
……ああア！

うふふふ
大きな声
出しちゃって……

グニョッ

ヌルルッ

ヌルルッ



咲夜も私と同じ快楽に
目覚めるんだから
もっと激しく
犯してあげて!

ほらほら
休んでる暇は
ないわよ♪

それにしても
はしたない声に音ね!
たまらないわね!

んおおああああ



次は俺が
するぞッ!

うう
こりや最高だ!

ほら!
どうだッ!



んっああああ

ああらめ...
おちんぼ...
とまらない



そうよ……♡
咲夜……もう大丈夫♡

あなたは
立派な性奴隷になったわ♡



これで
わがちあえる……
ずつとこの日を……
待っていたの♡



あ……あ……
一……二……



咲夜と一緒に
この快楽を
わがちあえる日を……♡



あんんッ♥

あッあああんんん
やああはあああ♥

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



くああつ
くさすぎる
…う♥

あ…うあ
おじ…あ…
まあ…♥

お嬢様もこのニオイが
好きなんだ…
お嬢様と一緒に同じ
快楽を…♥



私：お嬢様が求める
性奴隷になれたんだ♥



はは ちんぽを
ねじこまれた
お嬢様なんて
ただの性奴隷だな

性…っ奴隷に
してエエ♥



お前は俺のちんぽを
くわえてる時は
俺の性処理機だ！

ぐふふ…
いいか！

ああ…はい♥
咲夜はッ あなた様の
性処理機れふう♥





あ
あ

あ

あ

あ

あ



はい：でも頂いた薬が効いたようです

大丈夫？
レミイが満足するまで一緒に居たんでしょう？

そう……



……そうですか……



あの男なら生きてるわよ

レミイが約束通り自由にしたわ



……



そうですか

ただフランに
気に入られちゃった
みたい……
……気の毒な人間ね……



それにしてもレミイは
ほんと不器用ね

あんな
回りくどい事しなくても
想いは伝わるのに……




そんなお嬢様が私……



でも……

大好きなんです



お嬢様と
— つになれた
あの時間

私は真の意味で
お嬢様に全てを
捧げ仕えると…
そう心に誓いました

この命が
果てるまで

<あとがき>

はじめまして、そしてこんにちは! 小島紗です。
この度はお手に取ってくれてありがとうございます♪
上編に続き今回もなかなか…お話をまとめるのに苦労してしまって、結局総ページ数が
56pと言う我がサークル過去最大のP数になってしまいました(^o^)

そして上と下で内容がチグハグになってしまい、読み手の皆さんには不満が残る
作品になってしまったのではと…反省だらけですが、どうだったでしょうか…(滝汗)
なにはともあれ、咲夜さんとお嬢様にはどうしても幸せになって欲しかったので
色んな変態行為の末に結ばれる…というステキな結末にしてみました!!
ほら!愛のある変態は正義でしょう!w …そういうことにしておいて下さいw

あ、でも陵辱や調教といっても、お互いの信頼関係があってこそそのプレイだと思
っているの、知らない人とかにしちゃダメですよw
まあそれを一番強く伝えたいのは、このR咲の内容を考えてくれた友人のSっ子ちゃん
だったりするんだけどねwww

それではまた次にお会いできること楽しみにしてます(*^ー^)/

<奥付>

発行 ユリルラリカ
発効日 2010年8月15日
発行者 小島紗
連絡先 sy_kozima_17@yahoo.co.jp
HP <http://yuriru-rarika.nyanta.jp>
印刷 ねこのしっぽ

この本は成人向けです。18歳未満の購入・閲覧を禁止します。
この本の一部または全てを無断で転載・流用する事を禁止します。





アール井の@ユリルヲリカ